

九州産業大学開学 55 周年記念式典にあたって

九州産業大学長の山本でございます。

本日は、ご多用中にもかかわらず、本学開学 55 周年記念式典にご臨席賜り、有難うございます。また、皆様には、本学の教育・研究に対し、平素より格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。



九州産業大学
学長 山本 盤男

本学は、昭和 35（1960）年に故中村治四郎先生が「産学一如」を建学の理想として創設され、その後、日本経済の高度成長を背景に学部を順次増設し、昭和 50 年代後半の試練の時期を経て、「広く産業界の期待に応えられる実践力、熱意、豊かな人間性を持った人材」の育成をビジョンとする 8 学部と大学院 5 研究科からなる特色ある総合大学に発展できました。これも皆様のご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

さて、21 世紀の世界はグローバル化と ICT 化が急速に進展し、中国やインドなど新興国の経済的、政治的力が増大しており、多極化と価値観の多様化する大きな転換期にあります。わが国では、バブル経済崩壊後の経済停滞の中、少子高齢化、産業構造の転換や日本型雇用の変容等による地域間格差や所得格差の拡大、財政赤字の累増等の解決の困難な問題が山積しており、また、2011 年の東日本大震災による未曾有の複合災害からの復興も途上にあります。

こうした国内外の厳しい環境において、大学進学率が 50% を越えた大学教育に対しては、厳しい批判とともに、有為な人材育成と学術研究の発展への期待が大きく、教育再生実行会議の提言、中央教育審議会の「学士課程答申」、「質的転換答申」及び「高大接続改革答申」が出され、主体的に学び続ける人材育成のための大学教育の質的転換と地方再生の知の拠点としての役割が強く求められています。

本学では、こうした現状と社会的要請を踏まえ、「グローバル社会で活躍できる心身共に健全な人間教育の実現」を目標に教育改革と大学改革に積極的に取り組んでいます。

教育改革については、入学前から卒業・就職まで学生一人ひとりを支援する教職員協働の学修支援ネットワークの構築、教養及び外国語等の基礎力を培う「KSU 基盤教育」とアクティブ・ラーニング及び PBL により実践力を身につける「KSU プロジェクト型教育」、1 年次から 4 年次までの一貫したキャリア教育を柱とする教育プログラムの再構築により、

しなやかな強さで社会を生き抜くことができる九産大生を育成してまいります。そして、教育の学術的基礎となる研究については、この後、報告いたします実用化を目指す先端的研究及び若手教員の研究を積極的に支援しています。

大学改革では、18歳人口が減少し始める平成30(2018)年以降においても本学の規模を維持できる魅力ある学部学科への抜本的な再編を、建学の理想「産学一如」の原点に立ち返って検討しており、多様な人材ニーズに対応できる教育研究分野への挑戦を含めた再編による新九産大の創生を目指し、平成28年4月の新芸術学部を第一段階として、理工系そして文系領域の再編を着実に実行してまいります。

結びに、本学は、60周年さらに100周年に向けて、教育・研究の推進と地域社会との連携強化により、九州・福岡・山口の地域社会に根ざした総合大学として発展するため、教職員が一体となって邁進してまいります。今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。今日は、誠に有難うございました。